



2019年8月1日発行
(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区新町1-3-8
Tel 096-353-6397(代)



熊本YMCA学院卒業生 むさし運営委員 両角 彰則さん

卒業から20年、再びYMCAへ

「YMCAって、スピリット・マインド・ボディの3つが合わさった人間形成の場ですね」と、YMCAを熱く語るのは、むさしセンターに通う保護者の一人、両角彰則さん(41歳)。YMCA学院で4年間社会福祉を学び2000年に卒業。その後、障がい者支援施設に就職して利用者と18年間向き合いました。現在は高齢者福祉施設で介護福祉士として働いています。

学生時代は「きゅうりリーダー」の愛称で主に中央センターで体操教室の子どもたちを指導した両角さん。自身の息子が2歳になると迷わずむさしセンターの体育英語幼児園に入園させました。4歳になった知晃くんは今も水泳教室に通っています。元学生リーダー、現在は保護者の一人という立場からYMCAを支えようと、昨年からむさしセンターの運営委員になりました。運営委員とは職員とともに地域活動などの方針を決め、行動するボランティア会員のことです。YMCA学院卒業以来、YMCAの活動に関わるのは実に20年ぶりです。

ともに歩むボランティアの一人として

職員とリーダーの一体感

「子どもが好き、体操が好き、キャンプが好き。YMCAは好きなことだらけの場所でした」。子どもの頃から運動が得意だった両角さんはYMCA学院での授業の後や週末は体操のリーダーとして子どもたちと関わりました。「今だから言えますが、授業をさぼって指導に入ったことも」と懐かし気に語ります。当時、目標にしていた職員がいて、子どもたちの個性、自尊心、能力をどんどん引き出していく。無理強いせずに、動機付けから導いていく。その姿に心底憧れました。職員とリーダーの間に隔たりはなく、何か課題があればみんなで共有し、ずいぶん話し合いました。先輩リーダーや職員は偉ぶらず、でも、的確にアドバイスしてくれたり模範を示したりしてくれました。相互の信頼が一体感を生んでいくのを体感しました」。

息子を体育英語幼児園に入園させた理由について尋ねました。「リーダー時代に、幼児園で過ごした子どもたちのその後の成長を見て『これはすごいな』と。運動のスキルだけではなく、母親から離れて広がる子どもの世界観と社会性。『自分が親になったら必ず入園させよう』と、その時から思っていました」。



阿蘇で行われたリーダー研修
左上が両角さん(1999年)

押し付けではなく、YMCAを支えたい

当時の子どもたち、保護者、職員とも全力で向き合った両角さんだからこそ運営委員として求められる期待があります。「仕事で、障がい者支援施設の利用者さんや高齢者の方々と真心でふれ合うことができるのも、YMCAでの経験があったからこそ。当時の職員やリーダー仲間との交流は今でも続いています。以前に比べると今は世知辛い世の中になったのかな、学生リーダーも職員も『指導にミスは許されない』という風に見えることもあります。子どもたちや保護者、指導者同士が本気で向き合って、失敗から学ぶという懐の深さがYMCAのよいところ。でも、ノスタルジーに浸り、YMCAに押し付けるのいいとも思いません。運営委員には、学生リーダーとは違った役割と責任があると思っています」。

募金のために行われる「むさしフェスタ」では、協力をお願いで職員と一緒に地域の企業や店舗を回ります。「若い職員には、何のための募金か、どうしたらYMCAの活動へ共感が得られるか、について努めて話をするようにしています。こういう時間を通して私が学生時代に学んだYMCAの精神を、若い職員の皆さんに受け継いでもらいたいですね」。むさしセンター周辺に増えている発達障がいの子どものための療育機関とのコラボ、ライフワークにしている福祉現場のボディマッサーなど、YMCAに提案したいアイデアは次々に浮かんでいきます。が、押し付けず、寄り添い、動機付けから。学生時代の経験をベースに、両角さんはこれからもYMCAとの関りを深めていきます。

Pickup

熊本五福幼稚園
お泊まり保育で
そうめん流し



桃田運動公園
玉名市民プール
開園中

テグ
大邸YMCA職員研修
黒川保育園で
七夕交流



Information

行こう 見よう 深めよう

みんなのチカラを集めて世界を変えよう! YMCA祭

今年も各センターでお祭りを開催します。地域の皆さん、どなたでも来場可能です。益金は、災害復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等のために用います。

バザー出店品、抽選会賞品のご寄贈をお願いしています。また、当日ボランティアも募集します。詳細は各センターにお問合せください。

楽しむ
×
チャリティ

みなみセンター(田迎) サザンフェスタ

サザンフェスタでつながり、笑顔を世界へ広げましょう。お友だちとお誘いあわせのうえ、お越しください。

回 9月8日(日)11:00~15:00
場 みなみセンター(熊本市南区田迎5-12-50)

益金の使途 YMCA年末募金、災害復興支援、ミャンマー・モガウンYMCAエイズ孤児支援、地域活動及びNPO・NGO支援、熊本YMCA西ブロック活動費
因 託麻中学校吹奏楽、ステージ発表、のみの市、バザー、ゲーム、模擬店、大抽選会など 図 Tel 096-378-9370



ながみねファミリーセンター(長嶺南) ながみね祭

毎年大賑わいのながみね祭。今年も地域を挙げての開催で盛り上がること間違いなし!ぜひ、ご来場ください。

回 9月21日(土)15:30~19:30
場 ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南3-1-107)

益金の使途 YMCA年末募金、災害復興支援、東ティモールYMCA支援、防災及び地域の子どものための事業活動費、会員・地域の方々との交流の場 因 熊本県立大YOSAKOI演舞、夜市、各種発表会、お祭り広場、抽選会、のみの市、バザー、ゲーム等 図 Tel 096-385-0676



むさしセンター むさしフェスタ

地域のお住まいの方、お友だちも誘ってお越しください。



回 10月13日(日)10:30~14:00
場 むさしセンター(合志市幾久富1866-1339)
図 Tel 096-248-6334

東部センター 帯山まつり

地域のお祭りと同日開催!学生実行委員会を中心に企画中です!



回 10月27日(日)10:00~14:30(予定)
場 東部センター(熊本市中央区帯山2-1-11) 図 Tel 096-382-6661

中央センター 前進祭

メイン会場は広い体育館。家族揃って楽しめます。



回 11月10日(日)10:30~15:00(予定)
場 中央センター(熊本市中央区新町1-3-8) 図 Tel 096-353-6391

水前寺幼稚園 わいわい秋まつり

子ども向けゲームや食バザーなど、親子で楽しめます!



回 11月16日(土)11:00~13:00
場 YMCA水前寺幼稚園(熊本市中央区出水3-12-1)
図 Tel 096-362-4141

9月2日~6日

第20回アジア・太平洋 YMCA 大会

アジア・太平洋YMCA大会は4年に一度開催され、YMCAの動きを共に担う各国のYMCAが対話や分かち合いを通して、互いの力が発揮できる共通の取り組みを見出す場です。アジア・太平洋地域での貧困や差別、抑圧に抗い、異なる文化や価値観の間に調和を生み出す、真の平和を創る者としての行動を探ります。

回 9月2日(月)~6日(金) 図 国際青少年センターYMCA東山荘(静岡県・御殿場市)
因 年齢問わずYMCA、ワイズメンズクラブのメンバー、リーダー、スタッフ※大会の主旨語は英語です。講演など全体会議には通訳が付く予定です。 図 アジア・太平洋YMCA同盟
大会ホスト 日本YMCA同盟 図 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



国際
×
交流

9月13日 Friday

留学生たちが想いを語る 日本語科スピーチ大会

国際
×
学ぶ

YMCA学院日本語科に通う留学生によるスピーチ大会を開催します。学生たちの学習の成果をぜひご覧ください。

回 9月13日(金)10:00~
場 東部センターレクリエーションホール
因 予選を勝ち抜いた留学生がスピーチをします。事前の申し込みは不要
図 東部センター Tel 096-382-6661



R | E | P | O | R | T

[6月21日⇒ 7月1日]

水 泳

大切ないのちを守る みんな泳げる25M運動

6月21日(金)、益城町にある津森小学校で「みんな泳げる25M運動」と称し、水泳指導の出張授業を行いました。この活動は、70年前の1949年(昭和24年)、津森小学校の修学旅行中に児童と教師、校医の24人が亡くなった海難事故を教訓に、6年前から「いのちを守る」特別水泳授業として始まりました。

1～2年生には基本姿勢や呼吸法、3～6年生にはクロールや平泳ぎの基本動作のポイントを伝えました。今回参加した児童からは「少しずつ泳げるようになってうれしい」「自分のいのちを守ることがで

きるようにもっと泳げるようになりたい」といったうれしい声を聞くことができました。

熊本YMCAでは「全国YMCAウォーターセーフティキャンペーン」の一環で水難事故を防ぐための着衣泳体験等の講習も行っています。津森小学校でも7月17日(水)に実施するなど、今年は県内の幼稚園・保育園・小学校等27箇所です約3,100名が参加。これからも自分の身を守る術を身につけ、いのちの大切さを感じてもらいたいと考えています。

職員 兼瀬稔宜



ユース

サマーキャンプに向けて リーダートレーニング

多くの子どもたちが参加するサマーキャンプのシーズンを控えた6月22日(土)～23日(日)、YMCA阿蘇キャンプで1泊2日のキャンプリーダートレーニングを実施しました。ユース12名が参加し、座学だけでなく、自然遊び伝授、キャンプファイヤー指導、キャンプの安全などについて、実践を交えて学びました。2日目は熊本YMCAキャンプ担当スタッフと共に野外炊事とレクリエーション指導を体験。朝夕の集いや食事、入浴、宿泊等、1日の流れを経験することで、子どもとの関わりを具体的にイメージする

ことができました。

参加者たちからは「『子どもたちの“楽しい”が自分の“うれしい”になる』ということに魅力を感じた」「多くのスタッフと話すことができてよかった」「これからリーダー活動に積極的に参加し、自分自身も成長していきたい」などの感想が寄せられました。

キャンプは子どもと共にリーダーも飛躍的に成長できる場です。彼らのリーダーとしての活躍と成長を心より願い、キャンプへ送り出します。

職員 堤 雄一郎



熊本地震

短冊に願いを込めて 仮設団地住民と七夕交流

7月1日(月)、みなみセンターぶどうの木幼稚園の4歳児こぐまクラス16名が、御船町の落合仮設団地の住民の皆さんと七夕交流会を行いました。住民の皆さんに元気を届けたいと企画し、今年で2回目の開催。落合仮設団地の入居者数は、42世帯だったピーク時の55%の23世帯(7月1日現在)にまで減少し、65歳以上の高齢化率が更に上がっています。

子どもたちは、「たなばたさま」「しあわせならてをたたこう」の歌を発表し、住民と一緒に七夕の願い事を飾り付けました。住民の市川覺次さん(86

歳)は、「子どもたちに会えて楽しい」と話しながらも、「家を再建したい」と復興への願いを力強く短冊に書きました。

子どもたちは「どんな願い事を書こう」と皆で話し合い、自分の願い事だけではなく「みんながなかよくくらすますように」「みんながえがおになりますように」など、人のことを思いやる言葉があふれました。

世代間交流を通して、高齢者・幼児それぞれが有意義な時間を過ごすことができました。

職員 木村成寿



岡 総主事の タラン トン Vol.61



健やかな心

今年もサマーキャンプをはじめとする夏のプログラムシーズンがやってきました。多くの子どもたちが元気な笑顔を見せてくれることでしょう。YMCAが行う国内外の多様なプログラムにも多くの青少年が参加してくれます。YMCAの活動は、常に「精神・知性・身体」の全人的成長を願う使命を持ち展開されてきましたが、そこに

プログラムに関わる多くの人たちの存在があることを忘れてはなりません。

事故、災害、希薄化する人間関係を背景とした事件など、日常の平安が損なわれる出来事が後を絶ちません。子どもたちを取り巻く環境が劇的に変化していく中、未来に希望が持てる社会へ向けて、子どもたちの夢を育むことがYMCAに求められているのではないのでしょうか。

私たちは、子育て・子育ての両面から子ども一人ひとりに寄り添い、成長を応援するため、チャイルドケア、ウエルネス、グローバル、キャンプなどに取り組んでいます。長期にわたって誰よりも子どもたちの近くでサポートしていくことが、個々の生き方を応援していくことであると考えています。

また、熊本の豊かな自然は美しい心や感動を与えます。時間とお金をかけて人工的な構造物などで楽しむことが当たり前となった昨今、心を躍動させる素朴さを子どもたちから奪っているのは私たち大人なのかもしれません。キャンプを通して得られる自然の中での体験は、私たちの想像を超える劇的な成長をもたらす可能性を秘めています。色々な体験を共有する仲間との存在とリーダーの関わりが、子どもたちにとって、かけがえのない出会いとなり、健やかな心を育む場となっています。

この夏のプログラムが、参加する青少年にとってそのような場になることを願うとともに、彼らに関わる職員やリーダーにとっても、健やかな心を育む機会になってほしいと思います。

t a l a n t o n

“苦勞の先に素晴らしい時がある” -太平洋横断の全盲セーラー 岩本光弘さん-

2019年2月からアメリカ人のパートナーとともにヨットでの太平洋横断に挑戦し、55日間をかけて成功した全盲の岩本光弘さんが、6月に熊本YMCAを訪問。YMCA学院健康スポーツ科の学生を前に行った講話の内容を抜粋してご紹介します。

私は2度目の挑戦でヨットでの太平洋横断に成功しました。今まで、色々な挑戦をしてきましたが、「どうせ大きなことをするなら、世界一大きな海を渡ろう」と思ったのです。夢を持ったら人に伝えること。夢を公言すると「おもしろいね、助けてあげる」というドリームサポーターが現れます。多くの人に語ってドリームサポーターを増やしていくことが大切です。

6年前に初めて挑戦した時には、6日目にクジラに衝突して浸水。小さなボートで10時間漂流しました。それ以来、「目が見えないのになんてことをするんだ」「見えない奴は家にいろ」と、SNSやメディアを通して多くのバッシングを受け、「どうしてあんな夢を持ったのだろう。持たないほうが良かったのか」と落ち込みました。しかし、自分はこれまでいつも「ネバーギブアップ」と言ってきた。だから寝ている場合ではありません。もう一度チャレンジしようと決めると、新たなドリームサポーターに出会いました。一度死にかけたのに、もう一度やろうとしている情熱を分かってくれたのです。

再挑戦の時も順風満帆ではありませんでした。海が荒れた時には、斜め45度に傾き、大きな波に上から下へと落とされる感覚です。体重を支えながら

でないと歩けない、食事もともに食べられない。片手に水、片手にせんべいを持って、船内のベッドで「何のためにこんなことをしているのか」と考えることもありました。飛行機なら10時間、ヨットなら55日。ただたどり着くためなら飛行機でいけばいい。でも苦勞して着いた時には特別な感動があります。苦勞の先には素晴らしい時がある。そのために苦勞があるのです。

私は徐々に視力が落ち、16歳の時に全盲になりました。その頃は家から出るのが怖かった。家から一歩足を踏み出すこと自体がチャレンジでした。それができたことで、その後もチャレンジを続けられました。「見えなくてもできるんだ」という成功体験を積み上げ、「もっと大きなことをするんだ」と思えるようになりました。人が持っているポテンシャルは非常に大きい。自分を制限しないで、努力を積んでいけば、自分が思っているよりも何百・何千倍も大きなことができます。私にとっては、16歳のあの時、家から出られたことがその一歩でした。皆さんも小さなステップから始めたらいい。自分に自信を持って、そして、夢を持ちましょう。



岩本光弘さん

熊本県天草市出身。アメリカカリフォルニア州サンディエゴ在住
元熊本YMCA英会話クラス在籍生

サッカークラブカップ2019



7月7日(日)、益城町総合運動公園で開催。YMCAのサッカー教室、サッカークラブに通う81名の子どもたちが、汗を流しました。



わたしと聖句

ヨハネによる福音書15章7節

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

主の手を握りながら

私たちには、願いがいっぱいあります。健康に生きること、生きる価値がある存在だと感じられること、そして何といっても、救われたい、そんな願いがあるはずです。そんな私たちに、主イエスは約束して下さっています。「望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる」と。ただ、そのためには「あなたがたがわたしにつながって」いなければならぬのです。が、心配は要りません。主イエスの方から弟子たちすなわち私たちに、とにかくつながってほしい。手をしっかりと握って導きたい。そう十字架の前に話されたのですから。

ですから、私はいつでも主イエスとつながって、主イエスの手だけは離すまいと、精一杯その手を握りすぎりついています。3年前の熊本大分地震で私の教会も大きな被害を受けました。しかし、小さい群れの教会には会堂の再建は到底考えられず、御船町の被災者支援活動にYMCAと共に打ち込んできました。ところが、昨年3月に私がキリスト教の授業を教えているYMCA学院建築科の阿部さんが「卒業制作にキム先生の教会を設計しよう」といい、その模型を礼拝堂に展示すると、信徒の一人メイさんが「建て直すなら献金します」と申し出られました。それが実現し、今年7月15日に献堂式を捧げることができました。私が願うことすらあきらめていた会堂再建という奇跡が神によってかなえられたのです。どうぞ皆さん、主の手を握りながら望むものを何でも願ってみましょう。その手を離さず、主のみ言葉があなたの内にあるならば、神はあなたの思いをはるかに超える形でかなえてくださるでしょう。

在日大韓基督教会熊本教会
金聖孝

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡 成也 編集人／因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。